

録として残っているわけではないが、幸い北会津村に関しては、その大部分を占める地域の「会津郡中荒井村風俗帳」が、全文ではないがみられる。（福島県史23、民俗1、昭和三十九年三月刊）その後文化四年（一八〇七）にも風俗帳が書き上げられているが、文化六年（一八〇九）に新編会津風土記が完成しているため、その書上げの風俗記録はよくわからない。

これはあまり古いものではないが、県は昭和七年一月四日付で、各小学校などへ、郷土誌編さんを指示している。下荒井小学校と川南小学校で、それぞれ一冊編さんされ、その中に、いくらか民俗などの記録がみえ、北会津村としては貴重なものである。

昭和三十年「東北民俗誌―会津編―」の刊行が成ったが（山口弥一郎著）古風な生活を固守している奥会津の山村の生活記録が主になっている。これに昭和三十九年三月刊行された福島県史の民俗Ⅰ、つづいて昭和四十二年三月民俗Ⅱが刊行され、福島県下の一通りの民俗記録が整って、村の生活研究の対比ができるようになった。その間に、昭和三十九年七、八月、文部省の指示により、福島県教育委員会が、県下の民俗資料緊急調査（福島県の民俗 昭和四十一年三月）を三〇部落で行なった。会津地方でも、幾つもの部落調査を行なったが、近くの村では大沼郡会津高田町の西勝部落で行ない、北会津村の部落では行なわれなかった。

この「北会津村誌」編さんの際して、各部落の区長に、二〇項目ほどの書上げを依頼した。そして特に北部で石原、中部で中荒井、南で麻生部落を選び、改めて民俗調査を試み、現在の時点での生活慣習調査ともいふべき資料の蒐集につとめた。この記録は主に、これらの資料を軸として、その他の資料・文献・記録などを参照しながら、綴られている。

村の生活資料は、現在、広く民俗学の分野で取扱い、民俗資料ともいわれているので、民俗とか習俗、慣行生